

令和8年度 学力向上アクションプラン

学校番号 151

江戸川区立篠崎第四小学校

「全国学力・学習状況調査」平均正答率東京都との差				「江戸川区学力調査」平均正答率全国との差								
学年	第6学年			学年	第3学年		第4学年		第5学年		第6学年	
年度	国語	算数	合計	年度	国語	算数	国語	算数	国語	算数	国語	算数
令和12年度の目標				令和12年度の目標								
令和11年度の目標				令和11年度の目標								
令和10年度の目標				令和10年度の目標								
令和9年度の目標				令和9年度の目標								
令和8年度の目標	0	0	0	令和8年度の目標	1.6	1.6	1.7	1.6	4.9	6.9	0	0
令和7年度の結果	+3	+4	+7	令和7年度の結果	1.5	1.3	4.8	6.8	-1.2	-1.2	2.7	5.3
令和6年度の結果	+4	+2	+6	令和6年度の結果	2.2	1.3	-3.7	-3.1	4.7	5.9	5.1	4.2
令和5年度の結果	+2	0	+2	令和5年度の結果								

年度	令和7年度 成果と課題		令和8年度	
内容	成果と課題		目標	目標達成に向けた取組
学校全体	<p>【成果】</p> <ul style="list-style-type: none"> 算数科の授業研究に取り組み、習熟度に応じた学習内容や学習進度で授業を行うことで、各層の力をそれぞれ伸ばすことができた。 江戸川区学力調査においては、学年ごとにはばらつきはあるが、全体の傾向としては、全国平均を上回る結果となった。また、前年度に比べてD層の割合が減少した学年が多い。 【課題】 国語においては、「書くこと」の領域で正答率が低く、第6学年を除いて5割を下回った。 算数においては、どの学年も「思考・判断・表現」の観点で正答率が下がっている。 		<ul style="list-style-type: none"> 情報を読み取り、図や表で整理し、根拠をもって説明できる児童を育成する。 自分の考えを表現する力を高める。 基礎学力の確実な定着を図り、C・D層を減らし、中間層を厚くする。 	<ul style="list-style-type: none"> 区が主催する江戸川区スタンダード公開授業研修に参加し校内で還元研修を行う。 毎週金曜日に15分間、東京ベーシックドリルの前学年の問題（1年生は現学年の問題）を中心に取り組む。 東京ベーシックドリルの診断テスト・区の学力定着度調査を年3回実施し、課題のある単元については授業で重点的に指導する。 毎日の宿題を、漢字・計算・音読に、全学年でそろえる。
第1学年	<p>【成果】</p> <ul style="list-style-type: none"> 数の読み書き、数の比較、10のまとまりなど、基礎的な数概念が概ね定着した。 絵や具体物を用いた操作活動により、数量の把握が安定し、単純な加減計算の正答率が上がった。 数量を説明する場面では、話し言葉での表現が増え、自分の考えを伝えようとする姿が見られた。 【課題】 場面図・イラストから必要な情報を取り出し、数量関係を整理する問題の正答率が低かった。 文章題における「どれを、いくつ、どうする」の関係を探る際に個人差が大きかった。 比較・関係図・図示などの表現方法の未習熟により、考え方の可視化が十分でない児童が一定数いた。 		<ul style="list-style-type: none"> 図や絵を基に数量関係を正しく読み取り、文章題の意味をつかむ力をつける。 語彙や文の読み取りの基礎を身につけ、「読む→理解する」学習習慣を育てる。 	<ul style="list-style-type: none"> 絵→図→式の3段階で数量を整理する学習を毎時間で位置付ける。 文章題は「キーワードに線を引く」「図に表す」読み取りスキルをルーティン化する。 関係図（矢印・囲み・比較線）を用いた整理活動を前単元で共通化する。 語彙の習得と「文を読む・指示語を押さえる」練習の充実を図る。
第2学年	<p>【成果】</p> <ul style="list-style-type: none"> 計算技能（加減計算・九九）は全体として定着しており、高い正答率がであった。 九九の導入時の系統的な指導により、乗法の倍概念は比較的よく理解されている。 【課題】 かけ算の意味理解を問う問題の正答率が40～50%台と低かった。 点の配列や図表から数量関係を読み取り、式に表す思考問題が苦手な児童が多かった。 口を使った式の理解が深く、文章と式を対応づける際に課題があった。 条件整理を伴う問題の正答率が大幅に低く、学級内差が大きかった。 		<ul style="list-style-type: none"> かけ算の意味（1つ分×いくつ分）を理解し、数量のまとまりとして捉えられるようにする。 文の構造を押さえて読み、口の式と文章を結びつけて考える力を育てる。 	<ul style="list-style-type: none"> かけ算は「同じ数のまとまり」「1つ分×いくつ分」を意識させ、言語化を必ず行う。 口を使った式の指導を強化し、文章→図→式の対応付けを丁寧に行う。 誤答パターンを分類し、学年で補充問題を作成して短時間学習で継続的に扱う。 文構造の理解（主語・述語）と短文要約の練習し、基本文構想の理解を深める。
第3学年	<p>【成果】</p> <ul style="list-style-type: none"> 「思考・判断・表現」の観点は全国平均を上回った。特に、国語の「書くこと」、算数の「測定」の領域においては、5ポイント以上の差をつけている。 【課題】 「知識・技能」の観点においては、国語・算数の2教科とも全国平均をわずかに下回った。全国平均と比べて最大差が開いたのは、算数の「図形」の領域で、-2.9ポイントとなった。 算数においては、C層が最も多く、29.5%となっている。 		<ul style="list-style-type: none"> 基礎基本となる学習内容を確実に身につける。 文章題を図示して整理し、数量関係を基に筋道立てて解決できる力を育てる。 根拠をもって答える読解の基礎（理由付け）を身につける。 	<ul style="list-style-type: none"> 文章題を状況図・線分図で整理し、数量関係を明確にして解決に結び付ける。 わり算の意味（等分・包含）を操作と図示で理解させる。 国語では主語・述語など基本的文構造の習得を図り、読解の精度を高める。
第4学年	<p>【成果】</p> <ul style="list-style-type: none"> 国語・算数の2教科ともに、どの観点・領域でも、全国平均を上回った。特に、算数の「知識・技能」の観点においては、7.4ポイントと全国平均を大きく上回った。 算数においては、A層の割合が23.8%から31.1%と大きく伸び、D層の割合が21%から14.2%に縮まった。 【課題】 国語の「書くこと」「読むこと」の領域においては、正答率が5割程度にとどまっている。 		<ul style="list-style-type: none"> 図形・グラフを多面的に捉え、変化や関係を説明できる力を育てる。 接続語や要点整理を用いて、読み取った内容を的確に説明できるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> 後期から、毎週火曜日に15分間、「よむYOMUワークシート」に取り組む。 図形（面積・角）の学習を「構造→図→公式」の流れで理解させる。 国語では要点整理・接続語を用いた説明力を高め、論理的表現の基礎をつくる。
第5学年	<p>【成果】</p> <ul style="list-style-type: none"> 算数の「変化と関係」「データの活用」の領域においては、正答率が8割を超え、全国平均を上回った。 【課題】 国語・算数の2教科ともに、全国平均を下回った。全国平均と比べて最も差が開いたのは、算数の「数と計算」の領域で、-3.2ポイントとなった。 算数においては、D層が30.1%と、最も大きな割合を占めている。また、CD層が合わせて54.2%と半分以上を占めている。 		<ul style="list-style-type: none"> 基礎基本となる学習内容を確実に身につける。 分数・小数・割合の数量関係を図で表し、根拠を明確にして説明できる力を育てる。 要約や根拠提示を含む記述力を高め、思考を言語化する力を定着させる。 	<ul style="list-style-type: none"> 分数・小数・割合の関係を面積図・線分図で可視化し、理解を深める。 条件整理表・関係図を活用し、文章題の構造化を徹底する。 国語では要約力・根拠提示を含む記述力を育成し、思考の言語化を促す。
第6学年	<p>【成果】</p> <ul style="list-style-type: none"> 国語・算数の2教科ともに、どの観点・領域でも、全国平均を上回った。特に、算数の「思考・判断・表現」の観点においては、8.4ポイントの差をつけている。また、「図形」「変化と関係」の領域においても、8ポイント以上の差をつけている。 国語・算数の2教科ともに、A層が35%以上と、最も大きな割合を占めている。 【課題】 算数の「思考・判断・表現」の観点においては、正答率が5割程度にとどまった。 		<ul style="list-style-type: none"> 比例・速さ・割合の関係を整理し、多段階の推論過程を説明できる力を育てる。 資料を比較し根拠を示す記述力を身につけ、中学校につながる読解・説明力を養う。 	<ul style="list-style-type: none"> 単元計画の中で、習熟度別に、A層には探究的な活動を、CD層には必ず設定する。 比例・速さ・割合を線分図・表・座標で整理し、多段階の推論力を伸ばす。 条件整理カードによる文章題の構造化と、根拠を書く活動を定着させる。 国語では資料の読み取り・比較・根拠を示す記述力を強化し、中学校接続を図る。